

1. 概説

本編では、鋼骨組構造物の構成において基本となる部材の強度と照査について述べている。引張部材、圧縮部材および曲げ部材の限界状態を明確にし、終局強度の評価法を示した。また、軸方向力と曲げを受ける部材、せん断力とねじりを受ける場合の照査についてとりあげた。わが国では、部材の耐荷力に関する研究は約40年前から活発に行われ、その成果^{1),2),3)}が土木学会を中心に逐次まとめられてきた。さらに、鋼構造物の限界状態設計法への移行を目指した調査研究も精力的に進められ、昭和62年に鋼構造物設計指針が出版され、さらに平成9年には最新の成果を取り入れ改訂されてきた。本報告書では、鋼構造物設計指針(PART A 一般構造物、平成9年版)⁴⁾の内容を全面的に参照し、現行道路橋示方書⁵⁾との比較および設計における留意点について解説する。

参考文献

- 1) 土木学会：座屈設計ガイドライン，1987.10.
- 2) 福本 昉士（研究代表者）：鋼骨組構造物の極限強度の統一評価に関する研究，平成元年度科学研究費補助金（総合研究A）研究成果報告書，1990.3.
- 3) 鋼構造物の終局強度と設計，1994.7.
- 4) 土木学会：鋼構造物設計指針 PART A 一般構造物，1997.5.
- 5) 日本道路協会：道路橋示方書・同解説（I 共通編，II 鋼橋編），2002.3.